

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 落穂会

1 評議員会・理事会の開催及び監事監査実施について

令和元年 5月 監事監査

あさひが丘学園会議室

＊監事二人による平成30年度の本部並びに施設の運営状況及び会計経理についての監査実施

令和元年 5月 第1回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- ＊平成30年度法人本部及び各施設の事業報告について
- ＊平成30年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について
- ＊シュバル進入路新設工事に伴う土地取得について
- ＊シュバル進入路新設工事に伴う指名競争入札及び入札日時、指名業者の選考について
- ＊令和元年度補正予算について
- ＊あさひが丘学園 臨時賞与について
- ＊営規程の変更について
- ＊旅費規程の変更について
- ＊就業規則の変更について
- ＊給与規程の変更について
- ＊あさひが丘学園空調入替工事に伴う指名競争入札及び入札日時、指名業者の選考について
- ＊評議員候補者の推薦について
- ＊定時評議員会の招集について
- ＊新役員の選任について

令和元年 6月 第1回評議員会及び第2回理事会の審議事項

パレスイン鹿児島会議室

評議員会

- ＊平成30年度法人本部及び各施設の事業報告について
- ＊平成30年度法人本部及び各拠点区分の決算並びに監事監査報告について
- ＊新役員の選任について

理事会

- *理事長の選任について
- *シュバル進入路新設工事入札落札業者との工事請負契約について
- *あさひが丘学園空調設備等入替に伴うリース落札業者とのリース契約について
- *グループホーム落穂会における坂元町グループホーム新築工事 指名競争入札について
- *あさひが丘給与規程の一部改正について

令和元年 8月

理事会決議の省略による提案の可決

- *グループホーム落穂会（旭福祉センター）坂元町グループホーム建設工事入札に伴う落札業者との工事請負契約について

令和元年12月 第3回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- *社会福祉法人 落穂会 中間決算報告について
- *新規事業所立ち上げに伴う土地・建物取得について
- *放課後等デイサービスラソンの開設について
- *介護保険事業の開始について
- *経理規程の変更について
- *各拠点区分の補正予算について
- *評議員会の招集について
- *あさひが丘給与規程の変更について
- *旭福祉センター・第二旭福祉センター給与規程一部改正について
- *旭福祉センター・第二旭福祉センター契約職員給与規程一部改正について
- *パートタイマー就業規則の変更について
- *運営規程の変更について
- *厚生年金・健康保険適用事業所の統合について

令和元年12月 第2回評議員会の審議事項

グループホームあさひが丘 事務所

- *定款変更について

令和2年 3月 第4回理事会の開催及び審議事項

あさひが丘学園会議室

- *令和元年度各サービス区分の補正予算について
- *各事業所の運営規程の変更について
- *グループホーム落穂会運営規程の変更について
- *令和2年度法人本部・各施設の事業計画並びに各拠点区分の当初予算について
- *各事業所の就業規則の一部改正について
- *各事業所のパートタイマー就業規則の一部改正について

- * 契約職員就業規則の一部改正について
- * パートタイマー就業規則の一部改正について
- * あさひが丘給与規程の一部改正について
- * 給与規程（正職）の一部改正について
- * 給与規程（契約職員）の一部改正について
- * 令和2年度賞与支給月数について
- * 自立サポートあさひが丘の事業指定について
- * 施設長の定年延長について
- * 障害者支援施設あさが丘自家用発電機設置に伴う一般競争入札の公告事項について
- * グループホームとんぼ丸土地の取得について
- * あさひが丘学園駐車場用地の取得について
- * 経理規程の変更について

2019年度事業報告

障害児入所施設あさひが丘学園
障害者支援施設あさひが丘
地域生活支援センターあさひが丘
ガーデンキッズセルク・トリア
あさひが丘乗馬倶楽部シュバル
こどもサポートセンターゆうひが丘

最重点目標ならびに重点目標については、各目標の達成度について評価する。

評価	S	A	B	C	D
達成度	9割以上	7割程度	5割程度	3割程度	1割程度

1. 2019年度の最重点目標に対する報告

【最重点目標】

(1) 中長期計画の策定 【評価：B】

中期経営計画策定委員会を合計5回実施し、外部環境分析・内部環境分析・経営ビジョン策定ワークショップ・経営戦略の策定を実施した。具体的な経営計画・事業計画は来年度に持ち越しとなったが、経営理念を実現するためには法人としてどのような状態を目指すべきなのかという議論・対話を繰り返し行う事で、委員会メンバーの相互理解や信頼関係を構築することにもつながった。

(2) 職員必携書「共生と共創」の活用と行動化 【評価：A】

今年度は、職員必携書の「行動化」を掲げ、部署毎に実態に合わせて取り組みを行った。例えば、自部署に関連の深い項目について重点的に取り組みを進めたり、必携書に基づいたチームの月間目標を定め、具体的に行動した結果をチーム会議やグループウェアで共有したチームもあった。また、共有にとどまらず、一つの項目に対してチーム内で意見交換を行う機会を設けることで、必携書の内容と日々の支援の行動をリンクさせる機会にもなった。さらには、日々の支援の「振り返り」に必携書を活用している部署もあり、自部署の課題を共通認識とするためのツールや人事考課面談時のツールとして活用しているチームも見られた。

(3) 地域との関係形成と課題把握 【評価：B】

地域との交流活動として、法人行事の実施や地域行事への参加・協力、バザー出店、町内会への参加、公開療育や幼保・学校連絡会等関係事業所との連携、民生委員やライオンズクラブとの交流、小中高生の体験実習の受け入れ等を行った。また、地域貢献活動として、施設開放や備品の貸し出し、NPO 法人や県経営協との連携による生活困窮者支援、マルヤガーデンズとの協働による一般家庭を対象としたペアレント・プログラムの実施、地域の墓地清掃活動等に取り組み、地域の課題把握と課題解決に貢献することができた。

(4) 人材育成 【評価：B】

人材育成シートを共通ツールとして、部下に対してどのような育成意図をもってどのような仕事を任せるかという観点から上司が振り返りを行う機会を設けた。また、自律的な人材育成のために、日々の仕事の成果を自ら手を挙げて発表する新しい形の実践報告会を開催した。また、人事考課の際も、自身の取り組みを行動事実として考課表に記載することで、主体的に自身の仕事を振り返り、来期の目標を設定することに挑戦した。一方で、人材育成の型を体系的に整備することに関してはまだ道半ばである。次年度は「チームの相互作用」に着眼し、人が育つ組織づくりを進めていきたい。

(5) 業務効率化による働き方改革の実現 【評価：B】

業務の分担方法の見直しや省略化を通じて、1日当たりの平均退勤時間が2時間程度早くなるといった成果をあげた部署もでてきた。また、「業務効率化」がお題目にならないように、各職員が目指す「働きやすい職場」を議論し、その中のひとつの取組として業務効率化を組み込むことで、「やらされ感」をなくして取り組めるよう工夫している部署もある。一方で、組織実態調査では、残業が多いと感じている部署もあり、部署ごとに差がでてきている状況にある。法人としては、高度な記録作成システムの導入も検討しており、IT の力も駆使しながら、本取り組みの主体者である職員の意識を高めて来年度以降も継続して行っていく必要がある。

2. 2019年度の重点目標に対する報告

【重点目標】

(1) 情報共有の徹底を図り実行力を高める 【評価：B】

① 職員必携書の職務遂行上の留意点の実践

グループウェア・連絡帳・日誌・打ち合わせなど、複数のコミュニケーションツールを組み合わせた情報共有スタイルは部署ごとに浸透してきている。一方で、指示された業務の完了確認が漏れたり、情報発信者の意図が伝わっていないなどのコミュニケーションロスが生じることもあった。改めて「グループウェアの使用方法の見直し」を行い、対面コミュニケーションを充実させる必要がある。

② 会議の質の向上

「報告」がメインの会議から「ディスカッション」を取り入れた新しい価値を生み出す会議を目指した。会議参加者が参画意識をもって自ら発言をする雰囲気は醸成することができたが、議論の進め方やその後の実践には課題が残っている。

③ 会議議事録の作成と決定事項の進捗管理

一部の部署で期限内提出が達成できなかったが、前回会議の決定事項の進捗確認は組織に定着してきている。「いつまでに・誰が・何を・どのようにするか」を会議の場で合意することを徹底していきたい。

(2) 職場環境の充実を図る 【評価：A】

① 職場環境改善についての職員の意見収集

これまで部署ごとに職場環境についてのアンケートや具体的施策を行ってきたが、今年度は12月にあさひが丘全体で組織風土診断を実施した。階層・部署で切り口を絞りながら分析をすることで、より効果的な施策を検討する材料が集まった。具体的な施策の成果を検証するために来年度も実施を予定している。

② 年次有給休暇の取得

1人当たりの有休消化日数は、年間12.4日であり、掲げていた10日を達成することができた。さらに、全員が6連休または4連休を2回以上とれるようにするという目標も達成できた。

③ 経営幹部による職員面談について

今年度から、統括副施設長・副センター長に加えて、理事長にも面談者として加わってもらい、「業務についての疑問」「自身のキャリア形成について」など職員個々が話したい内容で経営幹部と話をすることが達成できた。

(3) リスクマネジメントへの取り組みを強化する 【評価：A】

① 必要備蓄品の品質管理

防火管理責任者、管理栄養士、防災委員会が連携し必要備蓄品の管理を行った。管理方法を見直し、災害時に使用しやすいよう保管庫内に視覚的に分かりやすい使用手順書と棚を設置し、災害1日目から3日目にかけて食糧備蓄品が取り出しやすく、使用しやすくなるよう改善を行った。また、発電機（地下水用）の燃料タンク（400ℓ）を増設し災害時にも電力供給が行えるようになった。炊き出し訓練は年2回実施した。実際に炊き出しを行う事で、必要準備品、調理法、提供方法と想定外の課題点を把握する事ができた。食物アレルギーのある方への非常食提供も別途準備することも対応した。アレルギー対応食に関しては、提供方法もふまえ今後、種類・個数を充実させていく。

② 実践を想定した災害時訓練

総合防災訓練時（年2回）に食糧備蓄品の使用と災害用の簡易トイレの試験使用期間を設けて、利用者・職員を対象として実施した。実際に使用する事で災害時を想定して使用方法の把握や凝固剤の使用上の注意を確認・理解する事ができた。また、①記載同様、職員による炊き出し訓練も年2回実施した。いずれも参加職員へ実施後にアンケートを行い改善点等把握し次回へ活かす事が出来た。

③ ヒヤリハットの報告・分析

ヒヤリハットはタイムリーに事象が共有できるよう内容・原因・対策を毎朝の朝礼で共有するようにした。分析に関しては、新たに薬のレベルを部署別に集計を行い、原因の特定再発防止に努めた。しかし、薬に関するヒヤリハットの減少には至らず職員個々の意識改善、与薬技術の向上が必要である。

(4) 新事業の円滑な運営と新たな事業展開のための施設整備を行う 【評価：A】

① 新グループホームの運営

令和元年6月よりグループホーム朝陽丸・夕陽丸を開所し、障害者支援施設から12名の方の地域移行が実現した。また、障害者支援施設の定員が52名から40名に削減されたことで、利用者の全室個室化も実現することができた。

②③ 空調整備の入れ替え工事・太陽光発電装置の設置

今年度予定していた「障害者支援施設の空調設備の入れ替え」「太陽光発電設備の設置」は予定通り遂行されている。

④ 新たな作業棟の建設について

新たな作業棟の建設については、土地の整備は着実に進んでおり、事業構想を具体的に検討する段階にきている。

(5) 利用者の権利擁護の取り組みを推進する 【評価：A】

①人権侵害防止への取り組み

あさひが丘グループ13事業所毎に、6月末に人権擁護チェックリストを実施した。また虐待防止マネージャーがチェックリストの内容を基に各事業所の状況に合わせた改善シートを作成し、改善の取り組みを行った。取り組み結果については、人権擁護に関する園内研修で各虐待防止マネージャーから報告し他事業所の取り組みを共有することで全体的な人権擁護の意識を高めた。今後もチェックリストを活用し各職員へ気づきを促し、事業所内で常に人権擁護について話題にできる雰囲気をもっと作り上げる。

②成年後見制度の活用について

成年後見制度について、新たに同制度の利用開始がグループホームで2件、現在申請中1件である。施設入所部門では、グループホームへの移行対象者に成年後見制度について情報提供を行った。

③虐待防止に係る関係機関との連携について

児童相談所への情報提供について、児童発達支援、相談支援からそれぞれ1件ずつ計2件行った。引き続き、児童虐待や障害者虐待の早期発見に努め、疑いのあるケースを発見した場合は関係機関と連携し、対応策を講じる。

3. 通常の事業内容に対する報告

【障害児入所施設あさひが丘学園・障害者支援施設あさひが丘】

(1) 個別支援計画について

個別支援計画の作成にあたって利用者がどのような思いで生活しているか聞き取り、想像したりしながらストレングスに着目した支援計画の提案が行えるようになってきた。まだまだ十分ではないが、これは職員がペアレント・プログラムに参加し利用者の強みに着目する研修を重ねプラス思考で物事を考えるトレーニングをしていることも影響を与えたと考える。引き続き利用者に関わる支援者が意見を出しながら支援計画を作成し、より良い実践に繋げたい。

(2) 日常生活支援

児童部では、家庭的な雰囲気の中で日常生活支援を行えるようになり生活の中で子ども達が様々な経験を積めるようになってきた。その中で子ども達が自身の役割（お手伝い等）を決め、日常生活に取り組むようになり、将来の夢や希望が広がってきている。健康管理においても、細やかな対応が行えるようになった。成人部では、6月に施設入所支援の定員を52名から40名に変更し、利用者の居室が

個室となった。利用者の意向にあった過ごしやすい居室作りを行っている。
摂食チーム会議において利用者の状態に合わせた摂食実態表を作成し実践場面で職員間の共有を行った。引き続き利用者の状態像に合わせ更新し言語聴覚士からのアドバイスも反映したものを活用する。
口腔ケアについて、口腔保健センターから口腔内の衛生状況が悪くなっている利用者の指摘があったが、看護師、支援員で再度口腔ケアの方法について再考し、その後医療機関から改善したとの評価を受けた。

(3) 日中活動支援（生活介護事業）

それぞれの科ごとの特色に応じて活動を展開した。

日中1科：あすもねと共同でみかん園管理を実施した。園芸療法や蹄鉄の創作も実施し、定期的な工賃支給にもつながった。

日中2科：陶芸を中心に、創作活動に力を入れた。毎日ラジオ体操も実施し、楽しみながら体を動かす機会も設定できた。

日中3科：レザークラフトは引き続き堅調で、各種バザーでのワークショップも実施した。他科との交流活動にも力を入れ、利用者の新たな可能性を見出す機会を設けた。

日中4科、5科：今年度より男性中心と女性中心のクラス編成を行い、リハビリを中心に利用者の身体機能の維持・向上に努めた。新たにフットケアも導入し、一定の効果も得られた。

全体としては、余暇の充実や、運動プログラムを通じての運動量確保など、年度当初に計画したことは実施出来た。セラピープログラムやワークショップも予定通り実施出来た。また、今年は障害者関係施設の全国大会にもあさひやが出店し、鹿児島県内の参加施設では一番の売り上げを記録する等、好評を博した。

(4) 余暇活動支援

児童部では、自治会等で余暇の希望を聞き取り少人数で子ども達の要望や希望に沿った活動を提供することができた。具体的な取り組みとしては、定期的な外食や買い物、単独外出（公共交通機関の利用）や放課後活動等への参加も積極的に行った。

成人部では、休日に利用者の希望を反映した余暇活動支援を実施した。昼食でお弁当の提供、施設内でそうめん流しセットを使用した企画、季節の花々を見るドライブ、ティータイムでは希望のあったドーナツの提供を行った。利用者の意向が反映されているため利用者からの反響も大きい。また、利用者自治会において、参加利用者がイメージし易いように写真等を掲示し行事の振り返りを行い利用者の意見が出やすい工夫を行った。

生活介護では、計画に沿って全利用者のワンデイ・ランチ外出を実施した。また、科ごとに毎月計画を立て、季節に応じた余暇活動を実施した。日中2科においては、

鹿児島県観光バス協会の招待事業により、池田湖バスツアーを実施する等、日頃の活動とは違った環境で余暇の充実を図ることができた。

(5) 健康・衛生に関する支援

看護師、医療機関と連携し、利用者の病気や怪我等への対応を適切に行い、利用者の健康管理に努めた。健康診断の結果については、嘱託医や主治医に相談と指示を仰いだ。必要に応じて専門医への受診と精密検査など利用者の健康に関する支援を行った。また、胃カメラ・大腸検査・腹部超音波検査については、利用者、保護者の希望を確認し、引き続き検査を実施することで、異常の早期発見、治療を行っている。感染症に関しては、感染流行時期前の感染対応マニュアルの活用や嘔吐物処理のデモンストレーションをチーム会議で行い感染予防対策に対する技術の習得や知識を高めることに努めた。また、新型コロナウイルス対策委員会を立ち上げ感染予防・対策に努めている。

(6) 自立生活支援

児童部では、対象者の状態像に応じた移行支援を行った。内訳は一人暮らし（1名）、家庭復帰（1名）、グループホーム（1名）、障害者支援施設（2名）、他施設への措置変更（1名）である。その中でも一人暮らしの移行者については、本人・家族の意思のもと日々の生活で経験を積み、関係機関と連携を図り移行につなげた。就労に関しても一般就労者（1名）であった。また、一昨年より鹿児島県主催で「障害児施設入所児童に係わる障害者施設等への移行に関する意見交換会」が開始されていたが、あさひが丘学園での移行支援がモデルとなり各市町村で「移行支援に関する連絡会」が行われる事となった。自立生活支援については、高等部入学時から関係機関との連携を図り本人と家族の希望を聞きながら計画的に進めたい。

成人部では、6月に施設入所支援部門から10名の男性利用者がグループホームへ移行し新生活を開始した。移行前に施設入所部門の職員とグループホーム職員との意見交換を重ねる中で、障害の重い利用者の方々の地域移行の可能性を見出すことができた。

【地域生活支援センターあさひが丘】

(1) 児童発達支援センター歩路・放課後等デイサービスシュバル

○児童発達支援（歩路）

今年度、児童発達支援事業利用率100%（前年比94%）の実績であった。68名の利用者に新版K式発達検査2001を実施し、アセスメントに基づいた個別支援計画書を作成し、発達段階に応じた療育活動の提供に努めた。

幼保連絡会や児童発達支援事業研修会、公開療育などを実施し、地域の幼稚園、保育園、他事業所、行政等の関係機関との連携に努めた。ペアレント・プログラムについても3名の保護者が参加する等、子育てに関する学びの場を提供することができた。

また、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、評価に基づく結果の公表を法人ホームページにて行った。

○放課後等デイサービス（我路・シュバル）

今年度、放課後等デイサービス事業利用率は、我路 117%（前年比 108%）、シュバル 110%（前年比 96%）の実績であった。平常時のキャンセル率の傾向や学校長期休暇中の職員体制の状況を踏まえながら、利用予約数を調整し、概ね安定した利用数を確保できた。3月については、新型コロナウイルスの影響を受け、利用率は、我路 96%（前年比 66%）、シュバル 85%（前年比 78%）と予定していた利用率よりも下回る状況があった。次年度については、定員順守の通知を受けており、保護者の意向を踏まえた上で、固定曜日での利用調整を行った。

学校連絡会や公開療育、保護者会を実施し、保護者や関係機関との連携に努めた。ペアレント・プログラムについても3名の保護者が参加する等、子育てに関する学びの場を提供することができた。今年度からの取り組みとして、きょうだい児支援会とホースフェスタを実施した。

また、放課後等デイサービスガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、評価に基づく結果の公表を法人ホームページにて行った。

○保育所等訪問支援（歩路・我路・シュバル）

児童発達支援センター歩路では、保護者の要望に応じて歩路 42件、我路 20件（前年比 173%）を実施した。シュバルについては未実施であったが、我路と併用利用の子どもが多く、実施内容について情報共有を行った。次年度についても、子どもを取り巻く関係者と連携を密にして、より良い支援を提供できるように保育所等訪問支援事業の推進を図ることが必要である。

（2）ワークショップあすもね（就労継続支援B型・生活介護）

利用者の出来ること、やりたいと思う作業の提供に努め、ツール作成や支援方法の統一を図ることで、取り組み作業の幅が拡大した。その結果、毎月安定した工賃（令和元年度月平均工賃：21,402円）を支払う事ができ、仕事に対しての充実感を高めることが出来た。

また、リサイクル回収作業やみかん販売の販路先拡大に加えて、新たに地域の墓

地清掃作業を請負うことで、地域住民とのかかわりも増え、あさひが丘を知ってもらう機会や地域の課題把握に繋げることができた。

生活介護においては、行動面・情緒面の支援と共に、作業を通して日中活動の充実に加えて、定期的な余暇活動を提供することで、利用者ニーズに合わせた個別の支援を実施する事ができた。

(3) ヘルパーステーションとわ

<平成31年度利用件数>

○居宅介護：836件 ○行動援護：356件 ○移動支援：353件

利用者・保護者との信頼関係を構築し利用者のニーズに可能な限りヘルパー調整を行った。今年度はグループホーム利用者が14名増えたことで、通院に係るやり取りなどが心配されたが、服薬管理表の提案や、受診に係る準備の手順についてなど、他部署と連携しながら、スムーズにサービスを提供することができた。

(4) グループホームあさひが丘（介護サービス包括型共同生活援助事業）

<各ホーム利用状況>

花梨（女性5名）・くるみ（女性4名）・ももか（女性6名）

つばさ丸（男性5名）・四郎丸（男性8名）・とんぼ丸（男性8名）

朝陽丸（男性7名）・夕陽丸（男性7名） 計50名

地域に根差すグループホームを目指し、地域行事や各ホームの所属する班会に利用者が職員と一緒に参加した。またグループホーム四郎丸を年間通して班会の会場として使うことが決まった。地域おこしの棒踊りにも参加し、棒踊りの復活とともに交流に努めた。夏まつりや運動会の準備・片付けに利用者が参加し、地域のニーズにも応えることができ、一部ではあるが利用者も名前でも呼んでももらえるようになってきた。

(5) あさひが丘相談支援センター

<平成31年度実績>

児童：計999件（サービス利用支援463件、継続サービス利用支援536件）

特定：計521件（サービス利用支援174件、継続サービス利用支援347件）

相談支援専門員が2名増えたことで新規利用者の相談にタイムリーに対応することができた。また、継続して保護者、利用者の希望を聞きとり、サービス等利用計画の作成を行いながら利用する事業所との連携を図ることもできている。生活困窮者支援については、週2日、相談支援専門員が出向し、生活困窮者、住宅確保要配慮者

の支援や触法障害者の相談支援の対応を行った。かごしまおもいやりネットワークについては、4件の問い合わせがあったうち、2件の相談者に対して食材の支援を行った。

【こどもサポートセンターゆうひが丘】

今年度、児童発達支援事業利用率 98%（前年比 124%）、放課後等デイサービス利用率 104%（前年比 185%）、保育所等訪問支援 27 件（前年比 245%）の実績であった。児童発達支援事業では幼保連絡会や児童発達支援事業研修会、公開療育を開催し、放課後等デイサービスにおいては学校連絡会を開催し、地域の幼稚園、保育園、他事業所、行政等の関係機関との連携に努めた。

また、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、評価に基づく結果の公表を法人ホームページにて行った。

【ガーデンキッズセルク・トリア】

（1） ガーデンキッズセルク

今年度、児童発達支援事業利用率 93%（前年比 92%）保育所等訪問支援 37 件（前年比 86%）の実績であった。47 名の利用者に新版 K 式発達検査 2001 を実施し、アセスメントに基づいた個別支援計画書を作成し、発達段階に応じた療育活動の提供に努めた。

児童発達支援事業所を対象とした公開療育を実施し、他事業所への参加も行い地域の関係機関との連携に努めた。ペアレント・プログラムについては 4 名の保護者が参加する等、子育てに関する学びの場を提供することができた。

マルヤガーデンズと連携を図り実施したペアレント・プログラムでは 10 名が参加し、地域で子育てにサポートを必要としている方への支援を充実に努めた。

また、児童発達支援ガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、評価に基づく結果の公表を法人ホームページにて行った。

（2） ガーデンキッズトリア

今年度、児童発達支援事業利用率 100%（前年比 85%）、放課後等デイサービス利用率 75%（前年比 112%）、保育所等訪問支援 36 件（前年比 109%）の実績であった。21 名の利用者に新版 K 式発達検査 2001 を実施し、アセスメントに基づいた個別支援計画書を作成し、発達段階に応じた療育活動の提供に努めた。

児童発達支援事業所を対象とした公開療育を実施し、他事業所への参加も行い

地域の関係機関との連携に努めた。ペアレント・プログラムについては4名の保護者が参加する等、子育てに関する学びの場を提供することができた。

また、児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドラインに基づいて保護者へのアンケートと自己評価を実施し、評価に基づく結果の公表を法人ホームページにて行った。

【あさひが丘乗馬倶楽部 シュバル】

利用者の安全を確保しながら個別レッスンを中心に引き馬やふれあいを通して乗馬活動を行った。

○引き馬（延べ人数）

放課後等デイサービスシュバル（751名）、放課後等デイサービス我路（33名）、児童発達支援歩路（39名）、ゆうひが丘（126名）、生活介護（337名）、児童入所（21名）。

○個別レッスン（延べ人数）

放課後等デイサービスシュバル（567名）、放課後等デイサービス我路（38名）、ゆうひが丘（38名）、ガーデンキッズ（6名）、生活介護（64名）、児童入所（28名）。

また、一般乗馬（契約4名）の乗馬活動も休日を中心に利用を受けている。新たな取り組みとしては、乗馬に関する日頃の成果を発表する場として10月にホースフェスタを実施した。放課後等デイサービス利用者16名が参加し、先生や保護者の前で緊張しながらも、楽しい時間を過ごすことができた。次年度以降も継続・発展していく予定。

4. その他の事業報告

（1）職員研修・資格取得等

① 園内研修

月	テーマ	担当
4月	安全運転について	支援課長：前田卓 （安全運転管理者）
5月	人事考課の運用変更について	人事課長：水流大樹
6月	馬とのかかわりについて	乗馬インストラクター 安藤忍
7月	「今さら聞けない！大人のためのマナー研修」	外部講師 フリーアナウンサー 池上 美弥子氏

8月	—	—
9月	実践報告 「業務効率化の考え方とポイント ～あすもねでの実践を通して～」	発表者 支援課長：田端敬美
10月	健康管理について	①看護師：三浦由紀子 ②看護師：佐野奈保子 ③看護師：幸得恵
11月	実践報告 ①「新体制後の生活環境の変化から気づいた事 ～障害が重くても個々に合った生活スタイルを支えるために～」 ②「H・Jさん実践報告 ～H・Jさんの成長と、日々の支援の紹介～」	発表者 ①1寮：渡瀬良介 ②3寮：福元龍一郎
12月	実践報告 ①「利用者支援を通して気づいたこと ～私のことをおもってくれる誰かがいるという安心感～」 ②「保護者参加療育の目的と意義 ～私たちが大切にしていること～」	発表者 ①2寮：新山くるみ ②セルク：片野坂剛
1月	防災について	チーフ：井上晃
2月	人権擁護について	チーフ：新澤杏奈
3月	新事業所紹介 ①こどもサポートセンターゆうひが丘 ②グループホームあさひが丘（朝陽丸・夕陽丸）	発表者 ①支援課長：原田誠子 ②支援課長 ：小中原多智子

② テーマ別研修

9月	障害があるお子さんのきょうだいへの支援について	九州大学大学院 人間環境学研究院 遠矢 浩一 氏
2月	ソーシャルスキルトレーニング×ペアレントトレーニング ～自分自身のプラン作りを起点に～	Office 夢風舎 フリーランスナース 土屋 徹 氏

③ 外部研修

新任職員研修や中堅職員研修などの階層別研修、強度行動障害支援者養成研修に代表される専門スキル向上研修、サービス管理責任者全体研修などの資格取得に向けた研修など、合計 62 回の研修・講演に延べ 197 名（重複者含む）の職員を派遣した。特に鹿児島県で行われた全国知的障害福祉関係職員研究大会では、若手職員を中心に 17 名が参加し、学びの多い研修となった。

④ 通信教育・資格取得

全職員の資格取得状況は以下のとおりである。(資格重複者含む)

【有資格者数】(令和2年4月1日現在)

資格名	人数	資格名	人数	資格名	人数
社会福祉士	12	ホームヘルパー	29	知的障害援助専門員	19
介護福祉士	32	介護支援専門員	5	知的障害福祉士	1
保育士	68	看護師	3	理学療法士	1
社会福祉主事	34	栄養士・管理栄養士	3	強度行動障害従事者養成研修	59
公認心理師	1	精神保健福祉士	4	言語聴覚士	2
相談支援専門員	12	サービス管理責任者	33	乗馬インストラクター	2

(2) 実習・研修の受け入れ

下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 16名(大学1校・短大3校・専門学校1校)
- ② 社会福祉士実習 3名(大学1校・専門学校1校)
- ③ 介護福祉士実習 4名(大学2校)
- ④ 福祉体験実習 0名 ※新型コロナウイルスの影響により中止
- ⑤ 臨床実習 45名(専門学校1校)
- ⑥ 介護等体験実習 6名(大学2校・専門学校1校)
- ⑦ 特別支援学校現場実習 22名(3校)
- ⑧ 外部職員研修 117名(8施設・2機関・2学校)

(3) 各サービスの利用実績 (別紙参照)

(4) 各サービスの利用契約数 (別紙参照)

各サービスの利用実績

【各サービス実績の単位】

①児童部・成人部(各月初日の入所者数)

②短期入所・グループホーム(日数)

③生活介護・児童発達支援・放課後デイ・保育所等訪問支援・就労B・相談支援(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
児童部 (契約)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	73
児童部 (措置)	20	20	21	21	21	21	21	21	21	21	21	22	251
成人部 (入所)	49	49	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	488
生活介護	1,822	1,877	1,806	1,865	1,630	1,825	1,915	1,754	1,737	1,709	1,703	1,866	21,509
生活介護(あすもね)	177	181	191	202	170	185	196	178	175	178	179	197	2,209
短期入所(児童)	62	72	59	91	126	80	60	65	91	72	93	120	991
短期入所(成人)	256	258	197	189	232	263	233	222	241	227	236	213	2,767
児童発達支援 (歩路)	430	469	508	481	470	512	525	491	513	514	468	569	5,950
児童発達支援 (セルク)	368	421	472	444	449	480	510	464	444	414	420	434	5,320
児童発達支援 (トリア)	191	190	191	194	191	229	214	192	216	212	171	213	2,404
児童発達支援 (希路)	163	168	193	204	178	211	218	197	197	213	189	224	1,831
放課後デイ (我路)	651	646	616	626	561	595	676	628	579	555	580	402	7,115
放課後デイ (トリア)	165	176	201	181	174	158	182	194	164	174	187	178	2,134
放課後デイ (シュバル)	354	327	363	327	324	326	360	347	332	308	317	265	3,950
放課後デイ (ニボボ)	270	258	258	266	230	239	231	251	235	242	222	226	2,142
居宅介護	60	64	65	76	78	68	76	69	68	71	69	72	836
行動援護	35	33	32	30	29	32	31	21	32	25	28	28	356
移動支援	38	35	26	32	33	27	40	23	20	25	25	29	353
日中一時支援	253	241	250	262	234	234	256	241	215	199	204	215	2,804
就労B	528	559	513	514	471	520	545	490	483	499	449	486	6,057
グループホーム	1,078	1,091	1,493	1,539	1,505	1,490	1,532	1,477	1,487	1,460	1,408	1,539	17,099
計画相談(児童)	80	102	89	88	70	115	55	53	91	85	65	106	999
計画相談(成人)	37	28	53	35	44	50	44	44	34	52	61	39	521
保育所等訪問 (歩路・我路)	1	0	12	6	1	3	9	8	4	3	15	0	62
保育所等訪問 (シュバル)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育所等訪問 (セルク)	0	2	4	1	6	3	0	12	0	3	5	1	37
保育所等訪問 (トリア)	0	0	7	0	2	2	6	3	12	1	3	0	36
保育所等訪問 (ゆうひが丘)	0	3	5	1	0	1	3	2	1	7	4	0	19

各サービスの利用契約者数(2020年4月1日現在)

サービス名	児童	成人	合計
入所（契約）	5	38	43
入所（措置）	22	/	22
入所小計	27	38	65
生活介護	/	97	97
生活介護（あすもね）	/	10	10
短期入所	163	127	290
居宅介護	0	46	46
行動援護	4	26	30
日中一時支援	32	97	129
移動支援	2	37	39
就労継続支援B型	/	27	27
児童発達支援（歩路）	53	/	53
児童発達支援（セルク）	60	/	60
児童発達支援（トリア）	28	/	28
児童発達支援（希路）	23	/	23
放課後等デイサービス（我路）	86	/	86
放課後等デイサービス（シュバル）	66	/	66
放課後等デイサービス（ピッコロ）	76	/	76
放課後等デイサービス（ニポポ）	38	/	38
保育所等訪問支援（歩路）	42	/	42
保育所等訪問支援（我路）	46	/	46
保育所等訪問支援（シュバル）	18	/	18
保育所等訪問支援（セルク）	32	/	32
保育所等訪問支援（トリア）	15	/	15
保育所等訪問支援（ピッコロ）	60	/	60
保育所等訪問支援（希路）	17	/	17
保育所等訪問支援（ニポポ）	33	/	33
保育所等訪問支援（ラソン）	13	/	13
放課後等デイサービス（ラソン）	14	/	14
グループホーム	/	50	50
相談支援	368	165	533
在宅小計	1289	682	1971
合計	1316	720	2036

2019(平成31)年度 事業報告書

旭福祉センター・第二旭福祉センター

■ 平成31年度の最重点目標に対する事業経過報告

1. 職員必携の活用・・・(評価B)

朝礼を活用して職員必携の読み込みを行こない、職員への周知と理解度を深めることができた。しかし、職員必携に関する感想文は実施できず、職員の理解度を把握することができなかった。来年度は確実な実施と理解度の把握、また表面的な理解に留まらず実践につなげられるよう、さらに職員への浸透を図っていく。

2. 地域密着型施設としての活動を推進(評価A)

今年度は岡之原町内会3班の受け入れを実施。また、棒踊り保存会、地域行事や清掃作業へ利用者と職員が積極的に参加し、交流を深めた。その他に今年度はペタンク競技を推進されている地域の方を講師に招き、利用者5名、職員3名でスポーツ交流を図った。12月には餅つき大会を開催、2家族、5名の地域の方々に参加いただいた。また、今年で3回目となる川上小の福祉体験学習は4年生94名との交流を実施した。

3. 人材育成(職員育成制度の円滑な実施)(評価B)

今回の目標の一つであった育成シートやチューター制度等の育成システム、新人育成のカリキュラムを確実に実施することができた。しかし、取り組みの実施ばかりに意識が向き、成果を実感できるような取り組み方にはなっていなかった。現在、取り組んでいる育成システムをより効果的な育成に繋げるために、それぞれの目的や効果を今一度確認し、対象者および非対象者にも理解してもらう取り組みが必要である。

4. 職場環境の充実(評価B)

ノー残業デイについては改善されつつあるが、徹底ができていなかった。「4日以上連続休暇取得」は100%取得することができた。また「有給休暇一人当たり10日以上取得」の目標も平均10.3日と達成した。但し、個別では若干名が達成できていない状況であった。次年度は全職員が達成できることを目標に、取り組んでいく。

5. 効率化(評価C)

効率化に関する取り組みは計画の通りにできなかった。作業マニュアルについては育成シートをベースに流れを継続するにとどまる。コスト面に関しては、作業収支管理表が完成した。今後は作業委員会が管理し、製販会議と職員会議で併用して使用、コスト意識をより向上させていく。

6. 利用者・家族へのニーズに合わせた質の高い支援の提供（評価 B）

役割分担・利用者の生活面の確立・施設内整備等の改善について、委員会・個人それぞれの役割を確認しながら進めることができた。今後も引き続き取り組んでいく。また、個別支援計画の質を上げるため計画作成に関わる職場内研修を実施し、スキル向上に努めた。ただ、質の高い支援計画の実施・運用には課題も多い。引き続き研鑽を重ねていきたい。

7. リスクマネジメントへの体制づくり強化（評価 B）

日頃の防災訓練に加え、今年度は災害発生状況をより厳密に想定しての非常災害訓練を行った。集合・点呼・避難等の反省点を踏まえ、今後の訓練に活かして行く。また、今年度は備蓄品の使用は無し。非常災害訓練後に備品の点検を実施した。

8. 就労支援に関する情報収集・強化（評価 B）

就労移行事業については、1名の就労希望者が就労となった。今後も実習先等の開拓を含め、他の事業等の連携を密に、次の就労支援に繋げて行く。尚、就労継続支援 B 型工賃平均についてはセンター・第二センターともに 27,000 円以上を達成できた。

9. 各種作業部門 製販計画の達成（評価 B）

今年度は「育成シートや現場 OJT を用いた職員の能力向上」を目標としていたが、各作業班でのバラつきや、管理面で当委員会が不十分な点もあり、今期の重点目標であった全作業班での完全実施には至らなかった。製販計画の達成については、作業班売上計画に対し、未達の部署もあったが、全体を通して計画を達成する事ができた。

◎平成 31 年度 各委員会の報告

- [地域①②委員会] 早期計画の立案と職員、利用者への周知徹底を目標に取り組んだ。緑ヶ丘朝市・農福マルシェ等の各種バザー(計15回)へ参加を行うが、予定していた行事が台風・新型コロナウイルス等の影響で、8行事 中止となった。
- [事務委員会] 円滑な経営を行うため試算表を基に検討を行ったが、予算管理等が不十分で、来年度見直し・改善の必要がある。今年度は「就労支援事業製造原価明細書」を毎月作成し、作業委員会と共同で各作業班の活動資金・収益の把握に努めた。また、事務所内でのサービス加算についての勉強会を実施、事務業務の資質向上と情報共有意識の向上に努めた。
- [職場改善①委員会] 新人職員に対する育成フローは完成したが、フローを最後まで完遂できなかった。よって、次年度は業務を完遂するまでを目標とする。また、職員の働きやすい職場づくりの一環として2, 3年目の職員を対象とした資質向上の研修「テーマ:報連相確」を行うなど、職場の資質向上と環境改善に努めた。

- [人権擁護委員会] 今年度も「施設内人権侵害防止チェックリスト」への記入を行い、その結果を基に施設内研修及びディスカッションを各1回ずつ開催。自身の行動を振り返り、虐待防止の意識向上を図る機会を設けた。また、利用者へのヒアリング調査も実施し、思いや考えを共有することで、より良い支援に繋げることができた。
- [炊事委員会] 今年度も嗜好調査を計画通り実施し、利用者の希望に合わせる為の改善を行った。また、2名の利用者の特別食が増え、体調管理で食事制限が必要な利用者も十数名いるため、全員で情報の共有・周知の徹底に努めた。今後も献立の組み方に注意し、炊事全体での話し合いを深めていく。
- [センターふれあいバザー実行委員会] ふれあいバザーは春(4月14日、55回目の開催)が会場を ゆうかり学園から旭福祉センターに変更して開催。変更による大きな混乱も特になく、約900名のお客様に来園していただいた。秋開催(11月23日、56回目の開催)も天候に恵まれ、約1,000名のお客様が来園された。いずれも実行委員会を早期に立ち上げて準備を徹底したこともあり、運営も円滑であった。
- [グループホーム旅行委員会] 入所旅行・餅つき大会を実施した。旅行検討時において、業者との連携に不備があったので来期は改善する。餅つき大会についても職員への周知、連絡が遅れた。来期はこれらの反省を踏まえたフローを基に、早期計画を進める。
- [行事 A] キャンプや新年会などを実施、今後は準備確認を円滑に進めるため、今年度作成した新年会準備のフロー資料を活用していく。来年度は新年会に限らず、キャンプ等、他の行事についても準備フロー資料の作成を行う。
- [行事 B] 一日旅行を中心に、各イベントに合わせた利用者外出を計画(新型コロナウイルスの影響で一部参加を中止)・実施した。全体的に立案・計画・実施の行動が遅かった。来年度は早期に余裕を持ったスケジュール調整を行っていく。
- [行事 C] 利用者と職員の親睦を目的としたバーベキュー、各グループホームのビアガーデン、利用者合同忘年会を計画、実施した。三行事とも計画通り問題なく実施できることができた。今後も、メンバーの連携を密に行い、三行事の質の向上を目指していく。
- [広報委員会] センターでのイベントや楓・NODOKA の情報発信は、SNS・ホームページを活用し、スケジュールの予実管理を行うことで計画通りに実施できた。また、ホームページの更新に関する仕様書を作成し、誰でも更新できる体制を整えた。打合時にホワイトボードを有効活用し、メンバー全員の情報共有を図った。来年度は、引き続き予実管理を徹底していく。

(平成 31 年度 各作業班別の重点目標に対する事業報告)

作業班	重点目標	事業報告
NODOKA	集客率アップ ・接客サービス向上 ・新メニュー開発	売上を達成する。常連客が増加傾向にある。おすすめメニューの魅力・接客スキルの向上が、いずれも売上に繋がったと思う。今後は宣伝に関し SNS 等にも力を入れていく。
楓 (菓子班)	人材育成(育成シート活用・利用者スキルアップ) ・協力体制の確立	売上計画を達成。各種イベント等について計画的に行うことができた。課題であった全体・利用者スキルアップを進めていくことはできたが、まだ完全ではないので引き続き取り組んでいく。SNS 等の宣伝が弱かったので工夫をし、今後も宣伝を強化していく。
竹工	人材育成シート活用による職員育成・利用者個々のニーズ把握を推進した支援の充実	売上は計画に対し未達。今期は新人職員 2 名に対し育成シートを活用することができた。支援については定期的なケース会議やご家族とのやり取り等からニーズ把握を行い改善した部分もあるが、今後もより充実したものになるよう推進していく。
蔬菜	協力体制の確立 ・人材育成 ・地域との交流	売上は計画に対し未達であった。職員、利用者のスキルアップのため作業別の説明カードを作成し、意識の向上に効果を発揮している。地域住民との関わりでは利用者も含めた交流の場面もみられた。今後も関わりを深めるために挨拶を続けていく。
陶芸	手作り作品の充実 「3K」(軽い・可愛い・重ねやすい)の徹底	売上計画は達成。 制作した製品の 7 割～8 割程は手作りを作製することができた。「3K」への取り組みは十分とは言えないが、意識をするようになってきている。
施設外 就労	各顧客との連携強化 ・利用者支援の強化 ・施設外就労の制度理解	売上計画を達成する。 先方に対し、各職員が積極的にコミュニケーションを図り、良好な関係を築くことができた。また、利用者支援に関しては、月 1 ミーティングを実施し、作業日誌・実施報告書の確認、利用者情報の共有及び、支援の強化に努める事ができた。
メンテナ ス	育成シート・研修を活用した人材育成	売上計画は達成。今期の重点目標に掲げていた育成シート・研修は面談や現場での OJT を通して行うが、清掃場所に応じた手順や道具の使い方などまだまだ不十分な面も見られるので、育成計画と研修内容の見直しを行う。また、来年も継続して OJT と研修を実施していく。

味噌	育成シートの活用・関係部署との連携	売上目標は達成出来なかったが、前年度の売上を超えることはできた。また味噌作りを行う上での関連部署への連絡が遅かった点や、お中元・お歳暮の資料作成が不十分な点があった為、今後は早期計画を徹底する。
生活介護	各活動の充実	リサイクル活動や音楽療法の充実に加え、新しい取り組みとして利用者の健康増進(口腔体操や手足浴等の健康管理)を行う事で、一人一人のニーズに応じた支援に努めた。

平成 31 年度 主要部門売上一覧

作業班	売上目標	達成額	達成率
蔬 菜	4,200,000	4,060,000	96.7%
楓 (菓子班)	17,300,000	17,440,000	100.8%
NODOKA	7,500,000	7,870,000	104.9%
メンテナンス	22,300,000	22,510,000	100.9%
竹 工	3,300,000	3,170,000	96.2%
陶 芸	1,170,000	1,590,000	136.2%
施設外就労	4,700,000	5,070,000	107.9%
味 噌	1,400,000	1,370,000	98.1%
その他	800,000	1,000,000	125.0%
合 計	62,670,000	64,080,000	102.2%

各サービス別の月額平均工賃

		H30 年度	H31 年度
旭福祉センター	生活介護	9,447	7,507
	就労継続B	26,744	27,282
第二旭福祉センター	生活介護		
	就労移行	19,117	10,371
	就労継続B	26,164	27,088
全 体 平 均		20,263	19,425
一般就労者平均(6名)		90,500	91,243

※令和2年 4月末データ

(その他)

1. 家族との連携強化(家族代表者委員会との連携)

家族代表者委員会では平成 31 年度 3 回に渡って委員会を開催した。議題としては、31 年度の施設主催バザー(春、秋の2回)についての反省、家族会役員のメンバー交代についての検討、31 年度以降の家族ボランティアメンバー選定、

障害者施策の情報提供などである。その他、施設の行事報告等を行い情報の共有に努めた。また、毎年8月の家族総会、1月の利用者・家族・職員合同 新年会を行い、親睦を図った。

2. 職員研修の充実

施設内において年間26回(新人・中堅・人権擁護・メンテナンス・チューター研修など)の研修を実施、職員の障害に関する知識と支援技術の向上や、一般常識的 知識の向上、道徳・倫理的な要素を取り入れた研修等を行った。また、外部研修についても協会主催の研修など、計67回の様々な研修・講演会に参加、資質の向上に努めた。

3. グループホームの充実

グループホームの充実を目的として、今年度も世話人との情報交換会(年2回)を実施した。また、7つのグループホームに所属する利用者(29名)と各担当職員を交え、グループホームの決まり事や要望等を話し合う意見交換会(年2回)を実施した。尚、8つ目のグループホーム 楓(坂元町)については、令和2年 3月に竣工し、同年5月7日より運営を開始した。

4. 福祉教育

31年度は、下記の実習生・研修生等を受け入れ、福祉教育の充実に寄与した。

- ① 保育士実習 4名 (1校)
- ② 特別支援学校現場実習 11名 (5校)
- ③ 福祉学習受け入れ 94名 (1校) ※川上小学校4年生

旭福祉施設センター

第二旭福祉センター

年間行事の実施状況(令和1年度分)

区分	実施状況	参加人数	備考
4月	5日 県社会就労センター施設長会 9日 利用者胸部レントゲン 14日 落穂会・ゆうかりふれあいバザー 17日 県知障協定例総会 24日 福祉研究会 27日 知的障害親善球技大会 28日 吉野兵六夢まつり	2名 利用者 職・利・保 5名 1名 利用者 職員・利用者	県社会福祉センター 旭センター 旭センター サンロイヤルホテル ピースフルガーデン 桜島溶岩グラウンド 吉野公園
5月	2日～6日 春休暇 8日 保育養成校共催施設実習連絡会 8日 県社会就労センター三役会・理事会 10日 新任職員研修 11日 パーベキュー大会 14日 スペシャルオリンピックス日本鹿児島評議員会 16日 社会福祉法人経営者協議会総会 21日 落穂会監事監査 22日 社福法人経営者セミナー 25日 県知事杯フットサル大会 28日 落穂会理事会 30日～31日 知障施設新任職員研修会	利用者 1名 1名 1名 利用者 1名 1名 2名 職員・利用者 3名	マリノパレス鹿児島 県社会福祉センター 旭センター 旭センター 城山ホテル ホテルレクストン あさひが丘学園 サンロイヤルホテル ふれあいスポーツランド あさひが丘学園 サンロイヤルホテル
6月	1日 ソーシャルワーカー協会理事会・総会 3日～15日 鹿児島国際大学保育実習 4日～7日 ハンドメイド&パンマルシェ 6日～14日 施設実習 11日～12日 県社協社会福祉施設等新任職員研修 14日 新任職員研修 14日 さんさん会定期総会 11日～22日 施設実習 16日 施設職員親善球技大会 17日～28日 施設実習 17日～28日 施設実習 22日 正和会創立30周年記念式典・祝賀会 23日 吉田フェスタ 24日 職員健康診断 24日～28日 施設実習 25日 九州地区施設研究会総会・研修会 28日 かがしま障害者共同受注センター理事会 28日 かがしま障害者共同受注センター研修大会	1名 4名 職員・利用者 鹿児島養護1名 1名 2名 4名 鹿児島養護3名 職員 武岡台養護1名 串木野養護1名 2名 職員・利用者 職員 鹿児島養護1名 1名 1名 5名	鹿児島国際大学 旭センター 山形屋 旭センター マリノパレス鹿児島 旭センター 睦園 旭センター サンライストポウル他 旭センター 旭センター 旭センター 吉田南中学校 旭センター 旭センター オリエンタルホテル福岡 県社会福祉センター 城山ホテル
7月	1日 安全運転管理者講習会 1日 鹿児島養護学校福祉施設等説明会 1日～5日 施設実習	1名 1名 特別支援学校1名	市民文化ホール 鹿児島養護学校 旭センター

区分	実施状況	参加人数	備考
7月	2日～3日 メンテナンス集合訓練研修 5日 串木野養護学校福祉施設等説明会 5日 就職案内 5日 就職案内 9日、10日、17日 入所利用者買物実習 12日 就職案内 13日 ソーシャルワーカーデー 18日 県社会就労センター臨時理事会 19日 社会福祉法人会計研修 21日 川上町夏祭り 26日 体験実習&見学 26日 新任職員研修 27日～28日 入所利用者キャンプ 29日 障害者就労支援ネットワーク会議 30日～31日 メンテナンス学科集合訓練終了試験	1名 1名 2名 2名 職員・利用者 2名 7名 1名 1名 職員・利用者 附属養護1名 2名 職員・利用者 1名 1名	福岡 串木野養護学校 城西高校 鹿児島女子短大 純心女子短大 鹿児島国際大学 県社会福祉センター サンロイヤルホテル 旭センター 旭センター 精神保健福祉交流センター 福岡 旭センター NODOKA 金沢 サンロイヤルホテル ポリテクセンター鹿児島 サンロイヤルホテル 市民文化ホール 旭センター 市民福祉プラザ マリノパレス鹿児島 旭センター 楓・NODOKA 北埴頭ターミナル 始良市民文化会館 県社会福祉センター 旭センター みどりが丘商店街 福岡国際会議場 県市町村自治会館 かがしま市民福祉プラザ かがしま市民福祉プラザ 東京 旭センター 県民交流センター ザ・ニューホテル熊本 旭センター 旭センター 県社会福祉センター
8月	1日 1、2年目職員研修 3日 利用者ピアデーン 5日～7日 佛子園視察研修 6日 福祉・保健医療現場就職ガイダンス就職ガイダンス 6日～8日 就業支援基礎研修 8日 人権擁護研修 9日 感染症講演会 10日 通所説明会・家族会総会・家族代表者委員会 10日～14日 夏休暇 17日 ソーシャルアクション実践研修 21日～22日 社会福祉施設等中堅職員研修 23日 人権擁護研修 23日～25日 楓のどか10周年イベント 24日 サマナーナイト花火大会 24日 てんかん医療講演会 27日 社福法人経営者協議会研修・広報部会 29日 人権擁護研修 31日 緑ヶ丘納涼宴祭り	12名 利用者 1名 2名 1名 1名 1名 職員・保護者 利用者 1名 2名 11名 職員・利用者 2名 1名 13名 職員・利用者	旭センター NODOKA 金沢 サンロイヤルホテル ポリテクセンター鹿児島 サンロイヤルホテル 市民文化ホール 旭センター 市民福祉プラザ マリノパレス鹿児島 旭センター 楓・NODOKA 北埴頭ターミナル 始良市民文化会館 県社会福祉センター 旭センター みどりが丘商店街 福岡国際会議場 県市町村自治会館 かがしま市民福祉プラザ かがしま市民福祉プラザ 東京 旭センター 県民交流センター ザ・ニューホテル熊本 旭センター 旭センター 県社会福祉センター
9月	2日～3日 病院清掃受託責任者講習 3日 社会福祉法人会計セミナー 9日 指定障害福祉サービス事業者等集団指導 10日 給食施設従事者研修会 12日 就労支援フォーラム 14日 新任職員研修 18日 介護職スキルアップ研修排泄ケア 19日～20日 九州地区知的障害関係施設長等研究大会 23日～27日 鹿児島大学介護等体験実習 24日～10/4 施設実習 27日 社会福祉法人経営者協議会研修・広報部会	2名 2名 2名 1名 2名 1名 2名 2名 2名 1名 1名 1名 2名 2名 2名 2名 2名 1名 1名 1名 1名	福岡国際会議場 県市町村自治会館 かがしま市民福祉プラザ かがしま市民福祉プラザ 東京 旭センター 県民交流センター ザ・ニューホテル熊本 旭センター 旭センター 県社会福祉センター 武岡台養護1名 旭センター 旭センター 県社会福祉センター

区分	実施状況	参加人数	備考
10月	3日～4日 強度行動障害支援者養成研修(基礎) 3日～4日 職場内研修担当者研修(養成コース) 6日、14日 一日旅行 8日 相談員、コミュニティワーカー養成研修会 10日 社会福祉法人会計研修 11日 武岡台養護学校実習反省会、情報交換会 18日 中堅職員研修 22日～24日 全国的障害福祉関係職員研究大会 26日 九州・沖縄ブロック社会福祉士研修会 27日 春山地区運動会 29日、30日 サービス管理責任者更新研修 30日 県障害者保健福祉大会 30日 吉野地域福祉施設連携防災計画作成プロジェクト委員会 31日～11/1 九州社会就労センター研究大会	2名 1名 職員・利用者 1名 2名 1名 7名 3名 1名 職員・利用者 2名 1名 1名 3名	サンロイヤルホテル 青少年会館 霧島方面 県社会福祉センター マリンパレス鹿児島 武岡台養護学校 旭センター 市民文化ホール他 熊本学園 春山グラウンド 青少年会館 県民交流センター 川上福祉館 宮崎観光ホテル
11月	1日 就労移行支援事業における意見交換会 4日 入所旅行 5日～6日 強度行動障害支援者養成研修(実践) 7日 65歳超雇用推進助成金相談会 8日 知的障害施設家族会連合会研修会 10日 西伊敷小学校バザー 10日 あさひが丘秋祭り 14日 インフルエンザ予防接種 16日 川上小学校PTAバザー 23日 ふれあいバザー 26日 川上小学校4年生体験学習・見学① 27日 サービス管理責任者更新研修 28日 川上小学校4年生体験学習・見学② 29日 川上小学校4年生体験学習・見学③	1名 入所利用者 2名 1名 保護者1名 職員・利用者 職員 職員・利用者 職員・利用者 職員・利用者 職・利・保 川上小学校4年生 1名 川上小学校4年生 川上小学校4年生	NPOラシーネ 人吉方面 サンロイヤルホテル ポリテクセンター ハートピアあさひが丘 西伊敷小学校 あさひが丘学園 旭センター 川上小学校 旭センター 旭センター 旭センター 青少年会館 旭センター 旭センター
12月	2日 利用者合同忘年会 4日 県社会福祉法人経営者大会 5日～6日 就労センター共同受注センター合同研修会 5日～12日 施設実習 7日 ソーシャルワーカー協会事務局会議・セミナー 8日 伊集院うめマラソン 10日、11日 買物実習 11日 県知障施設長等研修会 13日 市就労移行支援事業所連絡協議会 14日～15日 就労支援フォーラムNIPPON2019 16日 税務協力団体合同研修会 19日 指導監査 20日 社会福祉法人会計セミナー 20日 県青年経営者部会研修会 23日 福祉研究会研修 26日 もつぎ大会 28日～3日 冬休帰郷省	職員・利用者 1名 3名 大島養護学校1名 1名 職員・利用者 職員・利用者 3名 1名 3名 1名 3名 1名 2名 1名 1名 職・利・町内会 利用者	マリンパレス マリンパレス サンロイヤルホテル 旭センター 鹿児島国際大学 伊集院総合運動場 サンロイヤルホテル はーと・ぱーく ベルサール新宿グラウンド サンロイヤルホテル 旭センター 県市町村自治会館 レクストン鹿児島 ピースフルガーデン 旭センター

区分	実施状況	参加人数	備考
1月	6日 新年度 8日 障害者虐待防止・権利擁護研修 10日 さんさん会研修会・新年会 10日 介護職スキルアップ研修認知症ケア 16日 防火管理者等研修会 16日 九州社会就労センター研究大会に伴う委員会 17日 介護職スキルアップ研修口腔ケア 18日～19日 家族並びに施設職員研修会 20日 社会福祉法人会計セミナー 26日 利用者合同新年会 27日 三施設幹部等新年会 27日 鹿児島地域障害者就労支援ネットワーク会議 30日 民間社会福祉施設職員退職共済事務説明会	1名 2名 1名 1名 1名 2名 保護者1名・職員2名 2名 職・利・保 職員 1名 1名	旭センター ウェルビューかごしま あさひが丘学園他 県民交流センター 消防総合訓練研修センター 県社会福祉センター 県民交流センター ホテル京セラ 県市町村自治会館 サンロイヤルホテル パレスイン鹿児島 はーと・ぱーく サンロイヤルホテル
2月	4日 社会福祉法人会計研修 4日 スペシャルオリンピックス評議員会 10日 大正琴発表会 10日 ナイスハートバザール挨拶回り 11日 福祉の職場就職面談会 12日～14日 施設実習 13日 障害者就労センター理事会 13日、14日 職場内研修 17日 中堅職員研修 20日 グループホーム事業所研修会 20日 農福連携マルシェ運営委員会・合同説明会 22日 ハローワーク求人システムセミナー 25日～27日 施設実習 26日 社会福祉法人経営者協議会研修・広報部会 27日～3/1 全国ナイスハートバザールin鹿児島	2名 1名 職員・利用者 1名 2名 武岡台養護1名 1名 14名 6名 1名 1名 2名 特別支援学校1名 1名 職員・利用者	城山ホテル鹿児島 城山ホテル鹿児島 山形屋 県社会福祉センター 県民交流センター 旭センター 県社会福祉センター 旭センター 旭センター サンロイヤルホテル 県社会福祉センター 県民交流センター 旭センター 県社会福祉センター 山形屋
3月	18日 落穂会理事会 18日 施設防災訓練 21日 施設内研修 24日 施設内研修	職員・利用者 10名 6名	あさひが丘学園 旭センター 旭センター 旭センター